

原発から30km圏内自治体にも事前了解権を 上越市でも新協定案説明会開催

原発から30km圏内（UPZ）自治体にも原発再稼働についての事前了解権を与えるべきだと運動している柏崎刈羽原発UPZ議員研究会は、4月25日、3月にまとめた新協定案を説明する会を市民プラザで開催しました。会場には約60人の市民が参加しました。

説明会では冒頭、関三郎会長が挨拶しました。関会長は「茨城県では、立地自治体を含む周辺6市町村が原発との間で事前了解権が入った新協定を締結した。この方式を参考に、事前了解権を有した安全協定を東電との間で締結すべきと考えている。この会は、2020年に10名程度で発足、オブ

ザーバー29人を入れて、現在75人となっている。これからも会員を増やしていきたい。ぜひ会の活動にご支援を」と訴えました。

新協定案作成部会の牧田正樹部会長（上越市議）が新協定案について、①県内の柏崎市、刈羽村を除く28市町村が現在、東京電力と結んでいる協定をもとに、その改定案として整理することにしたこと、②改定内容としては、UPZ圏内自治体に「事前了解」「適切な措置要求」などの権限を加える、柏崎刈羽における「Dカード不正問題」などを受け、情報公開・通報連絡条項を強化することを盛り込んだことを明らかにしました。そして、県・立地自治体においてもこの提案を踏まえ、新たな条項の追加や強化の検討を期待するとのべました。



東京新聞宮尾記者が 先進事例を紹介

この日の会では、東京新聞記者の宮尾幹成さんが「原発の安全協定と私たちの安全安心」と題して約1時間にわたって講演されました。

宮尾さんは日本原電東海第二原発が立地する東海村だけでなく周辺6市町村が実質的な事前了解権を得た全国初の「茨城方式」をずっと追い続けた記者です。

講演では、①UPZ市町村が住民避難に責任を負っている

るのに、原発の安全性に関する仕組みがな



【トリガタハンショウツル】キンポウゲ科のつる植物。漢字で「鳥形半鐘蔓」と書きます。花期は4月から6月。花は鐘形で、黄白色、下向きに咲きます。野の花散歩をしていて、初めて出会いました。感動で震えが来ました。花言葉は、「感謝」「心の美しさ」。写真は5月6日、吉川区尾神にて撮影しました。

②原子力安全協定は「紳士協定」だが、電力会社は立地自治体に実質的な再稼働の事前同意権を与えている。これを少なくともUPZ市町村に広げることが筋だ。③安全協定の改定には立地自治体の協力が不可欠。首長が再稼働推進の場合には難しいが、立地自治体にもメリットがあることをわかってもらう必要がある。④地元の首長や議員に①②③を伝え、立地自治体に働きかけてもらう。⑤従来、避難計画の実効性は再稼働の条件でなかったが、実行性がなければ運転を差しとめることの司法判断が出た。UPZ市町村の電力会社への発言力は強まった。⑥安全協定の法制化を、地元国会議員に求めていくのもよい。ただ、長年の慣行の「対象は立地自治体のみ」が固定化されないようにする必要があり、などと話しました。

休憩をはさんで第二部では、まず、同研究会に入っている上越市議7人が前に出て自己紹介しました。私は12月議会一般質問で取り上げた新型コロナ下での屋内退避についての内閣府のマニュアルを紹介しました。「窓の閉めはしないを基本にしながら、30分ごとに数分換気する」というマニュアルに笑いが起きました。当然です。

地域で説明会開催をの声

参加者との意見交換では、「大湯区

では2町内会がUPZ圏内だ。ぜひ地元に入って懇談会や新協定の説明会を行ってほしい。新潟地裁での原発差し止め裁判のサポーターだが、議員の姿が見えない。議員も公判を傍聴してほしい」「30km圏内はあまり当てにならない。海岸では一挙に来る。あまり30kmにこだわらな。また、普通の家屋では遮蔽（しゃへい）効果はあるのか。使用済み核燃料は厳重に遮蔽されていることだが、家屋ではそれだけできない。使用済み核燃料がどれだけあるかも考慮してほしい」「放射能は消せない。また、安全だと言われてきたが、神話は消えた。福島ではいまだに苦しんでいる人たちがいる。後世に残さないように協力してやっていきたい。今日は良い会であった」「脱原発の運動をしている。きょうは自民党の議員も参加してくれてうれしい。（日頃の運動では）自民党にどう伝えるかに苦心している。アドバイスが欲しい」などの声があり、主催者側の議員がそれらに答えました。

閉会の挨拶は私の担当でした。私は、「安全を守ることでは党派を超えての取り組みが必要だ。きょうの会で出された要望には応えていきたい。きょうは、我々が考えていなかったことの意味もいただいた。有意義な会だったと思う。運動を盛り上げ、ぜひ、新協定が結ばれたという報告会をやりたい」とのべました。

はしづめ法一の
活動レポート

No.2010 2021.5.9
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第六五七回

トイレ介助

今年の三月から母の部屋で一緒に寝ています。

私が母と一緒に寝るのは二年ぶりです。前回は父が他界し、さみしいだろうと思っただけでした。今回は、母に病気の発症などの緊急事態が起きた場合に備えて決めました。

私が布団に入るのは早くて二三時頃、遅い時は午前一時を回ることもあります。母と一緒に寝ている時間は六時間ほどです。

おかげ様で一緒に寝る部屋に寝るようになってから今日に至るまで緊急事態はなく、ホッとしています。その代わり、私の新たな役割がひとつ、出てきました。母がトイレに行く時の介助です。

母がトイレに行くと言っても、トイレはポータブルトイレです。ベッドのすぐそばにありますので、車イスを使う必要はありません。ベッドとトイレの移動をスムーズにできるようにすること、母のズボンやパンツの上げ下ろしを手伝うことが私の主な仕事になります。

母はトイレへ行きたくないと、暗くなっている部屋の電気をつけます。次いで、ベッドの手すりやポータブルトイレの手を置く場所につかまって移動します。所定の位置に移動をしたことを確認してから、ズボン、ももひき、パンツを順に下ろします。その後、便座に座ることになります。母は「はあ、どっこいしょ、ありがとね」と言いながら、座ります。

このとき、ポータブルの真ん中にキッチンと座ってもらうことが大事です。ややもすると、浅く座ったり、斜めに座ったりしますから。それをちゃんと直さないとたいへんなことになります。おしっこがとんでもないところに流れ出てしまうからです。

便座にうまく座ってくねると一安心です。母の小便がトイレの容器の中に落ちる音を聞きながら、折りたたんだトイレレット

ペーパーを母に手渡しします。受け取った母は、いつも、「あたりがとう」と言います。そしてペーパーで陰部をふいた後、「よいしょの」を一回ないし二回言って威勢を付けて立ち上がります。立ったところで、パンツ、ももひき、ズボンの順に上に引き上げます。そして、再び布団の中にちゃんと寝るようにしてあげる、これでトイレ介助はおしまいです。

このトイレ介助は朝起きるまでに少なくとも三回しなければなりません。単純な介助とはいえ、一時間に一回の割合となると、こちらはなかなか深い眠りをする事ができなくなります。それがつらいところですね。

母はトイレに行くと、たいがいはすぐに布団の中で眠るのですが、眠れなくて、布団の中から私に声をかけてくることもあります。

三月の末ごろでした。「ああ、とちやがいていかった。おれ、おっかね夢見たがど……」と言って声をかけ、どんな夢かを語ってくれました。

先日も眠れなくなったのでしよう。つながりのない、いろんなことを思い出し、語り続けました。

「庄屋の家に子どもがいたがど……。どうしたかなあ」

「なに、田舎の話か」

「うん。おした(半入沢にあった家の屋号)の親戚で、ひとりの暮らしの人、いなたこて。あの人、どうしなつたらな」

「守さん、何年も前に亡くなったよ」

言うまでもなく母がショートステイ(短期入所)に行っていて家にいないときは、トイレ介助をする必要がありません。そういう時は、「今夜は楽々眠れるな」と思っ

て、布団の中に入るので、母がベッドに寝ていないと、ろくに眠れず、目が冴えてしまうのです。不思議なものです。

尾神岳での山菜まつり、にぎわう

5月4日、吉川区尾神の「みはらし荘」で恒例の「山菜まつり」が行われました。

人気の「山菜御膳」を食べるために、大勢の人が列を作りました。関係者によると、用意した80食はあっという間に売り切れになったということでした。

私は尾神岳山頂に登って山野草を楽しみ、その後、「みはらし荘」でカレーを食べました。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	4月28日(水)	5月5日(水)
上越南消防署	0.043	0.053
上越北消防署	0.047	0.050
新井消防署	0.053	0.057
頸北消防署	0.050	0.057
頸南消防署	0.063	0.067
東頸消防署	0.053	0.057
名立分遣所	0.047	0.067
高士分遣所	0.057	0.057

スクリーン使って「紙芝居」



直江津はライオン像のある館で3日、小松光代さんがスクリーンを使った「紙芝居」を演じました。

出し物は、「安寿と厨子王」と「福永十三郎物語」。「安寿と厨子王」では人さらいに会い、離れて行く舟の子どもたちに向かって母親が必死に声をかけるシーン、何度見ても切なくなりますね。小松さんならではの語りには拍手です。